

## 令和2年度「外国人市民を対象とした市民調査」について（報告）

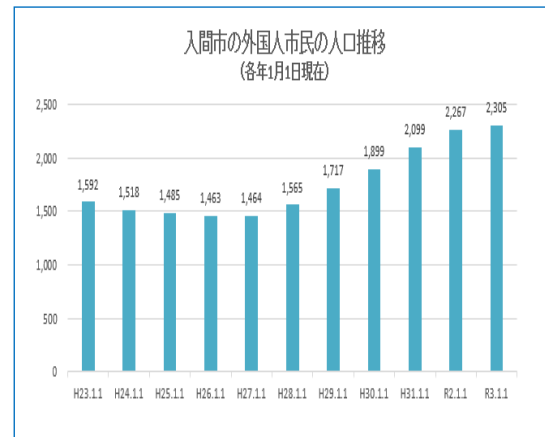
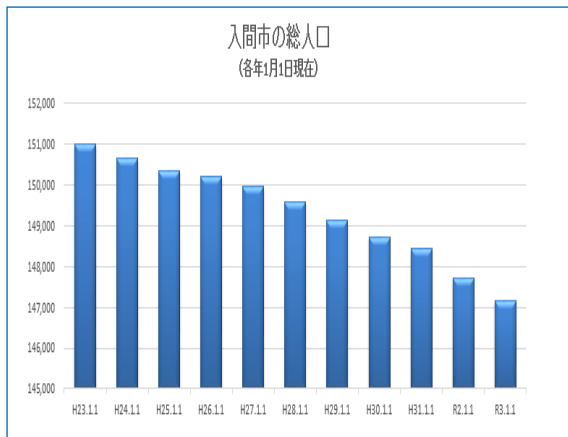
### ○現状

市内在住の外国人は、令和3年1月1日現在で2,305人であり、市の総人口147,166人に對し1.57%に値するものです。

10年間で総人口は3,838人減少、外国人市民は713人増加しています。日本人の急激な減少幅を外国人が抑えている状況となっています。

### 入間市在住外国人 人口の推移（1月1日時点）

年	総人口	外国人市民		合計(人)	割合
		男性	女性		
平成 23	151,004	721	871	1,592	1.05%
平成 24	150,651	681	837	1,518	1.01%
平成 25	150,367	660	825	1,485	0.99%
平成 26	150,216	643	820	1,463	0.97%
平成 27	149,952	637	827	1,464	0.98%
平成 28	149,593	701	864	1,565	1.05%
平成 29	149,124	782	935	1,717	1.15%
平成 30	148,723	927	972	1,899	1.28%
平成 31	148,442	1,032	1,067	2,099	1.41%
令和 2	147,731	1,143	1,124	2,267	1.53%
令和 3	147,166	1,167	1,138	2,305	1.57%



### 入間市地区別居住の状況（令和3年1月1日時点）

地区	地区別人口(人)	うち外国人人口(人)	割合
豊岡	54,168	904	1.67%
東金子	16,213	279	1.72%
金子	9,512	178	1.87%
宮寺・二本木	11,457	290	2.53%
藤沢	34,540	331	0.96%
西武	21,276	323	1.52%
計	147,166	2,305	

### 主な出身国・地域別人口の状況（令和3年1月1日時点）

地区	人数(人)	割合
中国	577	25.03%
ベトナム	464	20.13%

フィリピン	383	16.61%
韓国	135	5.85%
ブラジル	96	4.16%
ペルー	84	3.64%
ネパール	73	3.16%
その他	493	21.38%
合計	2,305	

(※1)技能実習1号…  
 技能実習の1年目は「技能実習1号」  
 企業単独型の1年目は「技能実習1号イ」  
 団体管理型の1年目は「技能実習1号ロ」  
 となります。

(※2)技能実習2号…  
 技能実習の2・3年目は「技能実習2号」  
 企業単独型の2・3年目は「技能実習2号イ」  
 団体管理型の2・3年目は「技能実習2号ロ」  
 となります。

主な資格別人口の状況（令和3年1月1日時点）

地区	人数(人)	割合
永住者	839	36.39%
技術・人文知識・国際業務	183	7.93%
技能実習1号口（※1）	63	2.73%
技能実習2号口（※2）	334	14.49%
日本人の配偶者等	144	6.24%
家族滞在	123	5.33%
留学	118	5.11%
その他	501	21.73%
合計	2,305	

外国人相談に訪れた市民の数

年度	相談数(人)							計
	英語	スペイン語	中国語	日本語	オンライン	通訳他	翻訳機	
開始年	H04.05	H04.05	H30.06	H04.05	R02.09	R02.07	R02.10	
平成 23	47	55		3				105
平成 24	51	75		16				143
平成 25	66	84		6				156
平成 26	96	56		5				157
平成 27	98	44		3				145
平成 28	84	41		4				129
平成 29	101	27		3				131
平成 30	125	26	5	3				159
平成 31	129	31	3	20				183
令和 2(※)	124	46	17	9	6	3	12	217

(※令和2年度は令和3年2月18日現在)

日本語教室（産文クラス）における出身国・地域別の参加状況

開始年	H05.06						
年度	参加人数(人)						
	中国	ベトナム	フィリピン	タイ	ペルー	その他	計
平成 27	28	8	9	2	3	28	78
平成 28	32	15	5	1	4	32	89
平成 29	28	20	23	1	3	21	96
平成 30	21	22	13	1	3	10	70
平成 31	17	25	7	3	2	17	71
令和 2	中止						

IRUMA COM+COM (※)

開始年	英語	スペイン語	中国語	ポルトガル語
	H07.02	H09.07	H09.07	H14

(※)広報いるま毎月1日号掲載記事より外国人市民に有益な記事を抜粋しA4用紙両面に翻訳したもの。

○調査概要

1 調査目的

「第6次入間市総合計画・前期基本計画」では、第1章・第1節「人権の尊重と権利の擁護」・第3項「多文化共生社会の推進」を掲げています。市民一人ひとりが国籍、文化の違いを認め合い、地域社会でともに助け合うことのできるまちを目指すものです。

令和4年度から、同・後期基本計画が始まることから、新たな施策や事業として反映させることを目的とします。

2 調査対象

令和2年12月1日時点での入間市在住の満20歳以上の外国人男女個人500人

3 調査地域 入間市全域

4 標本数 500人

5 抽出方法 住民基本台帳による等間隔無作為抽出法

6 調査方法 郵送配付、郵送回収（返信用封筒を同封）

7 調査期間 令和3年1月6日（水）～令和3年1月31日（日）

8 調査票

①やさしい日本語と外国語の2種類送付し、どちらか一方で回答

②選択式で一部記述式

やさしい日本語(ふりがな付き)	スペイン語
英語	タガログ語
中国語	ベトナム語

外国人市民の約70%の言語をカバー。翻訳は入間市国際交流協会の通訳・翻訳ボランティア等の協力によります。

9 調査項目

基本事項

質問1	年齢	何歳ですか？
質問2	国籍	国籍はどこですか？
質問3	在留資格	在留資格は何ですか？
質問4	居住期間	入間市にいつから住んでいますか？
質問5	世帯構成	誰と一緒に住んでいますか？

情報収集

質問6	生活情報の収集方法	生活に必要な情報はどこで知りますか？
質問7	行政情報の取得	市からの情報はどこにあったら便利ですか？
質問7-1	行政情報の取得(SNS)	市からの情報はどのSNSが便利ですか？
質問8	行政からの希望情報	市からどんな情報が欲しいですか？
質問9	通訳・翻訳	通訳や翻訳のサービスがあったら頼みたいですか
質問9-1	緊急情報の取得方法	COVID-19 や緊急事態宣言の情報はどのように調べましたか？

生活支援

質問10	生活での問題点	困っていることは、ありますか？
質問11	仕事での問題点	仕事で困っていることは、なんですか？
質問12	病気やケガの問題点	病気やけがで困っていることは、ありますか？

質問 13	相談相手	困ったとき、誰に相談をしますか？
質問 14	行政への要望	市にしてほしいことはありますか？
質問 15	避難場所	自分の家の近くの避難する場所を知っていますか？

#### 多文化共生の地域づくりと交流

質問 16	自治会	自治会(同じ地域に住んでいる人の集まり)に入っていますか？
質問 17-A	日本語教室	日本語教室を知っていますか？
質問 17-B	外国人相談窓口	外国人相談窓口を知っていますか？
質問 17-C	IRUMA COM+COM	入間市政情報紙『IRUMA COM+COM』を知っていますか？
質問 17-D	FM ラジオ外国語放送	FM CHAPPYの外国語放送『エフビーアイ』を知っていますか？
質問 18	地域への参加	『やってみたい』『参加したい』ことはありますか？

### 調査票回答

#### ○回答状況

調査対象者	500 人
配付数	490 件（宛名不明戻り 10 件）
回答数／回答率	139 件／27.8%
うち、やさしい日本語の回答数／回答率	54 件／38.8%
うち、外国語の回答数／回答率	85 件／61.2%

### 調査を終えて

平成 27 年度の前回調査時からわずか 5 年間で、市内に住む外国人市民が増加し、アジア圏を始めとする出身国の多様化、年齢層の若年化など大きく変化しています。

今回の調査の実施にあたり、まず取り組んだことは外国人市民の出身国の割合に合わせた調査票の言語選択でした。外国人市民の出身国・地域言語の約 70%をカバーする形で言語を選択し、調査票を作成しました。結果的には回答の回収率は 27.8%と、前回調査と比較して回収率は微増にとどまりました。

反面、回答結果だけで判断することはできませんが、自由意見も含め様々な意見をいただけたことは大変有意義なものです。時には取捨選択をしながらできる限りその声に応えていくことが私たちに課せられた使命と考えます。併せて、この調査が外国人市民にピンポイントで通知できる好機ととらえ、「〇〇を知っていますか？」「〇〇を利用したことはありますか？」といった質問事項が聞くだけで終わることの無いよう、多言語で作成した自治会案内チラシや Iruma Com+Com 等を同封しその周知を図りました。

外国人市民の総人口のうち約 25%にあたる 500 人（世帯で考えればその割合はもっと増えるかもしれません）にアピールをする機会を有効活用できたと考えます。

#### 調査時の状況

令和 2（2020）年の年明けより始まった新型コロナウイルス感染症。世界的感染拡大により出身国・地域に関わらず、経済、生活等様々な影響を受けている状況下での調査となりました。

感染防止のための外出自粛を求められ、経済の低迷の影響により仕事が減りました。市では多くの外国人市民が市内の事業所で働いており、外国人相談窓口のその際に真っ先に影響を受けたのは多くの外国人市民だと感じました。

また、帰国のタイミングであっても母国に帰れない方も多くいたことと思います。国の特別措置により、在留期間の延長や在留資格の変更などが認められましたが、以前仕事探しに困る外国人市民が多く見受けられました。

令和3年以降いつまでこの状況が続くものか、まだ先が見えない状況が続いていますが、平時の年に実施する調査とは異なり、調査の回答内容にも大きな影響が見て取れました。

## 調査のまとめ

### (1) 入間市における外国人支援・多文化共生

市では市の重要な方針を定める「第6次入間市総合計画・前期基本計画」の中で、「多文化共生社会の推進」を掲げています。この前期基本計画は令和3年度にて終了し、令和4年度からは同後期計画に移行します。この計画では、大きく『市民一人ひとりが国籍・文化の違いを認め合い、地域でともに助け合うことができる社会』を目指しています。市と入間市国際交流協会（以下、「協会」と言う）ではこのゴールに向けた各種施策・事業を実施しています。

### (2) 外国人支援の新たな形

調査結果では様々な思いを抱える外国人市民像が浮き彫りとなりました。外国人市民の多様化により求めるニーズは今後も高まっていくものと考えます。一方で、支援を求める声以外に自身の知識や経験を地域や他の外国人市民に還元したいという思いを持つ外国人市民がいることを目の当たりにしました。同じ外国人市民だからこそわかりあえること、支援できることが隠れているとも感じます。

今までの様な支援の形は継続しながらも、外国人市民自身の力を借りながら支援を行う循環型の支援の形についても検討していく必要があると考えます。そのためには外国人市民や外国人コミュニティとのつながりを持つとともに、そのつながりを引き合わせる橋渡しの様な役割が今後求められていくのではないのでしょうか。

### (3) 多文化共生社会の実現へ

調査結果が全ての外国人市民の声を代弁するものではないことは理解しながらも、今回の調査結果から見えてきたものは色んな意味での“違い”でした。それらは、市や協会において、支援が必要と考え力を入れている部分と、実際にそれらの受け手側の思いや考えの“違い”。地域や外国人支援に興味を持つ外国人市民が少なくないということが分かった嬉しい思い“違い”。一方で、「もう何十年も変わらない（“違い”がない）」との声をいただいたことも事実です。調査結果から分かったそれらの“違い”については、反省すべきところは反省し、多文化共生社会の実現へと役立てていきます。

また、(2)で述べた循環型の支援を、外国人市民だけでなく市民全体に拡げることや、自治会や団体等の地域コミュニティとのつながりを持たせていくことが必要と考えます。支援する側、される側という意識を無くし、お互いを地域の一員として認知することが多文化共生社会の実現につながり、国籍に関わらずお互いに足りない部分を補うことが少子高齢化を迎える地域や市の活性化、そこに住む住民の共助につながるものと考えます。

### (4) 調査回答から

今調査で設けた1から4の調査項目ごとに見えてきた課題に対し、求められる取り組みや方向性について検討していきます。

## 大項目1：「基本事項」より

### 【外国人市民の属性に応じた取り組み、方向性】

①外国人市民の年齢層の若年化により、外国人市民の求めるニーズが日本人市民同様多岐に

わたるようになりました。しかしながら、言語の壁から対応に差が出てしまう現状があります。

→市やその担当課において、外国人市民が増加、多様化していることに対する理解を得ることが必要と考えます。外国人だからといって対応に差が出るような仕組みや、地域や学校など住む地域の中でも支援ができるような仕組みが求められると考えます。

②外国人市民の在留資格の割合が定住・永住といった長く在住する在留資格と、技能実習等に代表される一定期間の在留の後帰国することを前提とした在留資格へシフトしつつあります。反面、定住・永住といった長く在住する外国人市民の増加は低迷しています。

→日本語教室や在留支援情報の提供といった短い期間での帰国を前提とした外国人市民への支援に加え、永住・定住といった在留資格の方が入間市に住み続けたいと思うような、住みやすいまちづくりが必要と考えます。

③上記①、②といったような状況についての、日本人市民や自治会を始めとする地域コミュニティへの理解や周知を促していくことが必要と考えます。

→少子高齢化で地域活動の担い手が減る中で、若い世代の外国人市民がその役を担ってくれることに期待しています。地域にとっては担い手の発掘につながり、外国人市民にとっては情報収集や生活の助けとなる WIN-WIN の関係性ができることが支援と共生の両立につながるものと考えます。そのために市内の外国人同士のつながりや同国出身者のコミュニティの発掘を行うとともに、地域の団体との橋渡しの役割が必要とされてくると考えます。

## 大項目2：「情報収集」より

### 【得やすく、理解のしやすい情報発信への取り組み】

①出身国の変化により、外国人市民が必要とする言語も多様化しています。それぞれの言語能力の差によって、得られる情報量やスピードに差が出てしまう状況にあります。

→ベトナム語を始めとする可能な限りの多言語対応に加えて、誰もが理解しやすい共通言語として「やさしい日本語」の活用を進めることも検討します。併せて、市役所内での「やさしい日本語」の活用や、外国人市民以外にもその周知や活用をお願いすることも必要と考えます。

②従来の紙媒体やテレビ・ラジオ以上に、インターネットやソーシャルメディア等の新しい情報発信ツールを活用している方が多くなっています。また、友人や同国出身者同士、学校・職場内での外国人市民間での情報伝達が多いことがわかりました。このことから、発信する言語もさることながら、誰でも正確で適切な情報を得ることができることが必要です。

→facebook のシェア等に代表される情報拡散、外国人市民同士でのいわゆる“口コミ”的な情報拡散の増加が見受けられました。情報を拡げてくれる方も正確な情報を発信できるよう形での情報発信が必要とされます。「やさしい日本語」の活用とともに、AI翻訳等で他言語に翻訳した際に誤翻訳されにくい言語を用いて情報発信の補強をする必要性もあると感じています。

## 大項目3：「生活支援」より

### 【支援と多文化共生の両立】

①困っていることの回答について、どの項目についても言語の壁と日本のシステムが原因と

なり困っていることが多い現状にあります。言葉の壁さえ取り除くことができれば多くの問題は解決しますが、もちろん簡単に解決するようなものではありません。

→通訳翻訳サービスの需要が高いことは回答からも理解していますが、市で無料もしくは安価で通訳・翻訳を請け負うことは難しいと考えます。診療、治療等個人の命に関わる場合もありますので、適切な形で民間業者の情報等を提供するなどの対応が求められます。また、時間はかかりますが、日本語教育の推進とともに、外国人を雇用する事業所への従業員の日本語教育への協力や通訳・翻訳ができる従業員の配備についての理解を求める必要があるかもしれません。

- ②外国人市民の若年化により、子育て世代の外国人市民が増え、外国人相談事業や市、市協会として教育委員会やこども支援部との間に入って支援することが増加しています。また、その反面今後外国人市民の問題として介護や高齢者支援といったことも起こってくると考えます。

→外国人市民の多様性に伴い、支援の幅は今後も広がることと考えます。今回の調査で判明した外国人市民の抱える困りごとに対応するためには、関係課や関係団体とのより密な連携が必要と考えます。可能な範囲で情報共有や情報交換を行いながら対応していくことが必要と考えます。

- ③外国人のみの世帯が増加していることにより、受けられる支援を知らないままの方。ルール・仕組みがわからないことでトラブルとなるケースが見受けられます。

→各種の説明会等を実施するなど、外国人市民向けの説明会等を各課の協力を得ながら実施していくことも必要と考えます。また、地域在住の外国人市民とその地域団体との引き合わせを行い、お互いが地域に住む人を知り、困った時には助け合える地域となる仕組みを作ることも求められてくると考えます

- ④困った時の相談相手として身内や同国出身者間で相談、解決しようとする方が多いことが分かりました。相談場所の確保やその周知の強化が必要とされています。

→外国人相談窓口と自治文化課での相談件数は毎年増加しています。周知の結果と外国人市民同士の口コミがその要因かもしれません。それら相談者の口コミといった力を借りながら相談場所の周知に力を入れるとともに、国や県といった専門的な相談場所の情報発信を継続して行う必要があると考えます。また、相談がない場合や、日本語が不自由であっても自治文化課窓口に来れば何か情報を得られるかもしれないと思わせる、気軽に立ち寄れる窓口が必要とされるかもしれません。そのような場を作ることにより、③で述べたような外国人市民と地域住民との間でつながりを築く上での大きな鍵となると考えます。

- ⑤自身の力を地域や他の外国人市民に役立てたいと考える方が多いことが分かりました。その想いを還元していくためには想いを持つ外国人市民の発掘やとの関係性を気づいていく必要があることや、地域住民やの団体とのマッチングを行う必要があります。

→現状、同国出身者や外国人市民同士のコミュニティを把握できていません。先に述べたような外国人市民向けの説明会や市や協会が実施する各種事業を通じて、外国人市民とつながる機会を作る必要があると考えます。そこで得たつながりを日本人市民とのつながりに接続することが、国籍や違いを超えた共生につながり、国籍の垣根をこえた市全体の活性化につながると考えます。

(5) 次に向けて

「20年前と何も変わっていません。このアンケートも何度も書きました。印刷代もかかるので、オンラインでのアンケートが良いと思います。」

グサリと刺さったこの意見は、今回実施の調査票の自由意見欄にあったものです。

外国人市民に関することは、市議会でもたびたび取り上げられ、この調査実施についても約束したものです。ひょっとしてやっているつもりになっているだけ？今実施していることが間違っているのか？不安の波に襲われながら過去の資料を引っ張り出し、振り返りました。

入間市国際交流協会（以下「協会」という）の前身、入間市姉妹都市交流委員会が平成4年1月に発行した「姉妹都市ニュース」に、平成3年7月27日産業文化センターで「市内在住外国人との懇談会を開催」との記事があります。外国人市民（以下「市民」という）と気軽に触れ合える機会を持つことをねらいに実施した催しです。（平成3年10月現在、市民は885人でした。）この催しに参加した市民との意見交換では、行政に対する意見や要望が少なく、外国人との接し方や日本の文化や習慣に関わる意見が多いと記録されています。

市と協会はこの懇談会開催後の平成4年5月から外国人相談を開始し、その後日本語教室、IRUMA COM+COM をスタートさせ、市民に対する生活支援事業として現在も継続しています。29年前から取り組んでいる事業ですので、意見者の「20年前と何も変わっていません。」は決して間違いではありません。が、真摯に受け止めなくてはならない意見であります。

外国人相談は拡充しているものの、日本語教室は開設日を増やす、IRUMA COM+COM は言語を追加するなど検討案件とするべきかもしれません。情報が届いていない、足りていないことは反省しなくてはなりません。

入間市出身のジャーナリスト室橋裕和氏の著書「日本の異国」では、日本在住の外国人から「共生は無理かもしれないけれど、共存はできる」と取材しています。また、「家族のような濃密なつながりはつくれなくても、ゆるやかに穏やかに「共に在る」ことはできる」と著者は発信しています。「共に在る」については、お互いの存在を認め、外国人には日本の慣習や文化をより知ってもらう。日本人には多様な価値観と文化を許容する。いろいろな国の人と渡り合い受入れていく気持ちを持つこと、と解しました。

30年前の懇談会の意見は、外国人に対する気持ちの部分を探っていたのではと、今回の調査結果と著書から感じとりました。

令和時代に入り、日本人の価値観は自己の満足度を高めることを優先するようになってきます。また、少子化、高齢化に伴い労働力が減少し、外国人の手を借りないと回らない社会となっています。

日本には古くから、各自が持ってより集まる「持ち寄る」という文化があります。モノでなくても心を持ち寄れば、支え合い、寄り添う気持ちが醸成されます。来日したばかりの外国人市民や生活が安定しない外国人市民の生活支援、外国人同士の横のつながり、日本人市民とのつながりを構築し、持続可能な社会を目指す必要があります。

今後も外国人相談、日本語教室、IRUMA COM+COM を推進するとともに、持ち寄った事業の検討や更なる発展を目指し、事業案を提示し結びとします。

事業	展開
外国人相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン相談の周知</li> <li>・ 音声翻訳機の効果的な活用（他課への貸出等）</li> <li>・ 入管による定期的な在留資格相談会の実施</li> </ul>
多言語情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IRUMA COM+COM の効果的な周知、新たな言語の検討</li> <li>・ 「ごみの出し方・分け方」新たな言語追加                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ タイ語、タガログ語、インドネシア語、ネパール語</li> </ul> </li> <li>・ 多言語による「ごみ収集日程表」</li> <li>・ SNS を活用した情報発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 自動翻訳機能の利用促進</li> </ul> </li> </ul>



日本語教室	・オンライン化に向けた検討
外国人支援	・ 進入学、学習、生活支援等を目的とした支援者の募集 ・ 進学・学習等生活支援者連絡会の設置 ・ やさしい日本語の周知、活用 →市民課他窓口での申請書への活用
共に在る	・ 団体等と連携した地域活動 →地域のおまつりや運動会などの参加 ・ 人権推進事業 →違いを認識し受け入れる学び ・ 日本語学校や外国人受入団体等との連携

将来 SAI 国際交流連絡会で協議したい案件

日本語学習を柱とする学校開設提案	<p>・ ダイア圏域で外国人市民の割合が相当数の割合を超えた段階で、川口市にある夜間中学（川口市立芝西中学校陽春分校）をモデルとする学校開設を目指す提案。</p> <p>各自治体の外国人数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自治体</th> <th>総人口</th> <th>外国人人口</th> <th>割合</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埼玉県</td> <td>7,342,682</td> <td>196,537</td> <td>2.68%</td> <td>(R02.06.30 現在)</td> </tr> <tr> <td>川口市</td> <td>607,373</td> <td>38,945</td> <td>6.41%</td> <td>(R03.01.01 現在)</td> </tr> <tr> <td>所沢市</td> <td>344,216</td> <td>6,197</td> <td>1.80%</td> <td>(R02.12.31 現在)</td> </tr> <tr> <td>飯能市</td> <td>78,095</td> <td>1,028</td> <td>1.32%</td> <td>(R03.01.01 現在)</td> </tr> <tr> <td>狭山市</td> <td>149,826</td> <td>2,746</td> <td>1.83%</td> <td>(R03.01.01 現在)</td> </tr> <tr> <td>日高市</td> <td>55,294</td> <td>875</td> <td>1.58%</td> <td>(R03.01.01 現在)</td> </tr> <tr> <td>入間市</td> <td>147,166</td> <td>2,305</td> <td>1.57%</td> <td>(R03.01.01 現在)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>774,597</td> <td>13,151</td> <td>1.70%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自治体	総人口	外国人人口	割合		埼玉県	7,342,682	196,537	2.68%	(R02.06.30 現在)	川口市	607,373	38,945	6.41%	(R03.01.01 現在)	所沢市	344,216	6,197	1.80%	(R02.12.31 現在)	飯能市	78,095	1,028	1.32%	(R03.01.01 現在)	狭山市	149,826	2,746	1.83%	(R03.01.01 現在)	日高市	55,294	875	1.58%	(R03.01.01 現在)	入間市	147,166	2,305	1.57%	(R03.01.01 現在)	計	774,597	13,151	1.70%	
自治体	総人口	外国人人口	割合																																											
埼玉県	7,342,682	196,537	2.68%	(R02.06.30 現在)																																										
川口市	607,373	38,945	6.41%	(R03.01.01 現在)																																										
所沢市	344,216	6,197	1.80%	(R02.12.31 現在)																																										
飯能市	78,095	1,028	1.32%	(R03.01.01 現在)																																										
狭山市	149,826	2,746	1.83%	(R03.01.01 現在)																																										
日高市	55,294	875	1.58%	(R03.01.01 現在)																																										
入間市	147,166	2,305	1.57%	(R03.01.01 現在)																																										
計	774,597	13,151	1.70%																																											

※SAI 国際交流連絡会…ダイアプラン 5 市(所沢市、飯能市、狭山市、日高市、入間市)の国際交流担当課と国際交流協会事務局が会し、情報交換等を行う連絡会議。

参考文献 室橋裕和著「日本の異国」(株式会社、同著「ルポ新大久保」(辰巳出版)